

## 相澤病院を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名 (研究番号)	転移性脳腫瘍に対する免疫チェックポイント阻害薬併用定位放射線治療：傾向スコア解析による比較研究 (承認 No. 2022-041)
当院の研究責任者 (氏名・所属・職名)	四方聖二・ガンマナイフセンター長
他の研究機関および 各施設の研究責任者	該当なし
本研究の目的	<p>中枢神経系は血液脳関門が存在するため、脳転移は薬物療法に抵抗性を示すことが多く、このため脳転移を有する進行期癌患者の予後は不良でした。しかし、近年の免疫チェックポイント阻害剤、新規分子標的薬の相次ぐ登場により進行期癌患者の生命予後は大きく改善しています。転移性脳腫瘍に対して従来は全脳照射が広く行われていましたが、生存期間の延長に伴いその神経毒性が問題視されるようになり、転移性脳腫瘍に対する治療の考え方も大きな変革の時期を迎えています。限定的な脳転移に対しては以前から定位放射線治療が適応されていましたが、治療装置の格段の進歩と相まって、その治療適応は拡大傾向にあります。</p> <p>しかし、定位放射線治療に免疫チェックポイント阻害剤が組み合わされることにより、果たしてどの程度予後の改善や局所治療効果が上乘せされるか、治療毒性が増強しないかといった点については未だ十分には解明されておらず、本研究の目的はこの臨床的疑問に答えるところにあります。私たちは腎細胞癌からの脳転移を対象を絞って同様の研究を行い、免疫チェックポイント阻害剤併用療法が生存期間、頭蓋内病変の制御を大きく改善することを報告しました (Journal of Neurosurgery, in press)。研究対象を全ての癌腫に広げて研究を行うことにより、さらに普遍的な結論を得ることができるのではないかと考えています。</p>
調査データ 該当期間	2015年1月から2021年12月までの患者さんの診療録
研究の方法 (使用する試料等)	<p>●対象となる患者さま 上記期間内に相澤病院・がん集学治療センター・ガンマナイフセンターにて、転移性脳腫瘍に対してガンマナイフ定位放射線治療が行われた患者さん</p> <p>●利用する情報 電子カルテに記録された診療録(患者背景、臨床経過、手術所見、術後経過)を収集し、統計学的な解析を行います。情報収集の作業に当たっては研究責任者がこれを行います。</p>
試料/情報の 他の研究機関への提供 および提供方法	他の機関への試料・情報の提供はありません

様式 17

<p>個人情報の取り扱い</p>	<p>利用する情報から氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会・論文等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。</p>
<p>本研究の資金源 (利益相反)</p>	<p>本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません</p>
<p>お問い合わせ先</p>	<p>社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院 がん集学治療センター ガンマナイフセンター 四方聖二 Tel : 0263-33-8600(代表)</p>
<p>備考</p>	